

平成17年10月11日

水産庁
独立行政法人 水産総合研究センター
東北区水産研究所

平成17年度東北海区サバ長期漁況予報

- 別表の水産関係機関が検討し、
独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所がとりまとめた結果 -

今後の見通し(2005年10月～12月)

0歳魚は前年を大きく下回る。

1歳魚は前年を上回るが、近年の卓越年級群を大きく下回る。

2歳以上は少ない。

全体では前年を上回る。

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)及び東北区水産研究所のホームページ(<http://www.myg.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当:青木、笠原

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話:03-3502-8111(内線7375)、直通電話:03-3501-5098、ファックス:03-3592-0759

電子メール:mitsuhiro_kasahara@nm.maff.go.jp

独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所 企画連絡室

〒985-0001 塩釜市新浜町3-27-5

電話:022-365-7196、ファックス:022-367-1250、電子メール:www-tnf@ml.affrc.go.jp

参画機関

北海道立釧路水産試験場	水産庁
北海道立函館水産試験場	資源管理部 沿岸沖合課
青森県水産総合研究センター	増殖推進部 漁場資源課
岩手県水産技術センター	独立行政法人 水産総合研究センター
宮城県水産研究開発センター	北海道区水産研究所
福島県水産試験場	中央水産研究所
茨城県水産試験場	東北区水産研究所
千葉県水産総合研究センター	
社団法人 漁業情報サービスセンター	

東北海区サバ漁況予報

今後の見通し(2005(平成17)年10月～12月)

対象海域:三陸～常磐～犬吠海域

対象漁業:まき網

対象魚群:マサバ、ゴマサバ 0歳魚(2005(平成17)年級群)、1歳魚(2004(平成16)年級群)、2歳(2003(平成15)年級群)以上。魚体の大きさは尾叉長で表示。

(1)来遊量

マサバ、ゴマサバとも、0歳魚は好調であった前年を大きく下回る。1歳魚は加入豊度の比較的高い年級群であり、来遊量は前年を上回るものの、近年の卓越年級群(1992(平成4)年級群、1996(平成8)年級群)の1歳時を大きく下回る。2歳以上は少ない。全体では、前年を上回る。

(2)漁期・漁場

おもに沿岸域に滞泳するマサバ、ゴマサバ1歳魚の集群、および沖合からの0歳魚の来遊によって、三陸南部～常磐海域、漁期後半ではさらに犬吠海域までで漁場が継続する。沖合からの1歳魚の来遊は少ない。

(3)魚体

29 cm前後のマサバ、ゴマサバ1歳魚が主体で、漁期が進むにつれて25 cm以下の0歳魚が混じる。35 cm以上の2歳以上は少ない。

漁況の経過(2005(平成17)年7月～9月)および見通しについての説明

1. 漁況の経過

(1)まき網漁業

7月は、上旬から鹿島沿岸～犬吠埼沖でマイワシ混じりながら漁場が形成され、中旬まで継続した。下旬には、常磐北部でマイワシ、マアジ混じりで漁獲され、三沢沖など三陸北部でもスルメイカに混獲された。

8月は、三陸北部でスルメイカ混じりやさば類主体で漁獲された。中旬には常磐北部でもマイワシに混じって漁獲された。また、道東海域でも漁獲がみられた。

9月は、三陸北部の漁場は継続した。常磐北部はマサバ主体の漁場となり、下旬まで継続した。道東海域は、中旬までさば類の漁獲があったが、その後カタクチイワシが漁獲対象となっており、さば類は南下したとみられる。下旬には金華山周辺など三陸南部にも漁場が形成された。9月末以降、三陸北部～南部を主漁場として漁獲は継続している。

漁獲物は、水揚げ物によってはゴマサバが多い場合もあったが、全体ではマサバ主体であった。体長23～40 cmの範囲で、28～29 cmにモードがあり、鱗の輪紋による年齢査定から、1歳魚主体であった。道東海域の漁獲物も体長28 cmモードの1歳魚主体であった。

東北海域における7～9月の漁獲量は、4.7万トン(暫定値)であり、前年同期実績(2.2万トン)を大きく上回った。また、道東海域におけるまとまった量の漁獲は1993年以来であり、漁獲量は3.1千トンであった。

(2)その他の漁業

岩手県、宮城県の定置網にはさば類の入網が見られ、7～9月の漁獲量はそれぞれ1.3万トン、1.0万トンであり、両県とも好調であった前年同期実績(1.4万トン、1.0万トン)と同程度であった。漁獲物は、マサバ主体で、体長はおおむね22～44 cmの範囲で31～33 cmにモードがみられ、鱗の輪紋による年齢査定から、1歳魚、2歳魚主体であった。

道東海域のサンマ流し網漁業、および棒受網漁業では、体長28 cm前後のさば類1歳魚の混獲がみられ、若干量水揚げされた。さば類0歳魚の混獲はほとんど無かった。加入豊度の高い年級群では、0歳時にサンマ漁業への混獲が多いことが知られていることから、2005年級群の加入豊度は高くないと判断される。

2. 調査船調査結果

(1) 北海道立釧路水産試験場(北辰丸)が、道東～三陸沖において1994年以降毎年8～9月に行っている流し網漁獲調査の結果、本年は、さば類1歳魚の漁獲は1994年以降最も多かったが、0歳魚は前年を下回った。本調査結果は各年の加入豊度の指標となることが知られており、本年の結果からは2005年級群の加入豊度は、2004年級群を下回ると判断される。

(2) 東北水研(用船北鳳丸;北海道実習船管理局所属)は、道東～三陸～常磐沿岸から東経164度までの海域において、9月10日～10月1日に中層トロール漁獲調査を行った。54回の試験(夜間(一部昼間)30分間曳網)で、体長6～32 cmのさば類が811尾漁獲された。

推定0歳魚(体長25 cm以下)は、近海の親潮第1分枝、および東経159～164度の表面水温15 以下の親潮域で漁獲された。0歳魚は、春季の北上期には、黒潮続流によって東方へ運ばれて本邦近海から東経165～170度付近まで分布することが、中央水研、東北水研などの調査船調査結果から知られている。秋季の南下期においても東経160度以西まで分布していることが本調査によって確認された。漁獲物の体長は、沖合では16 cm以上であったが、近海では大部分が15 cm以下であった。全体では、体長モードは8 cm、19 cmであり、例年この時期の0歳魚の体長(21～22 cm前後)より小さいものが多かった。

推定1歳魚(体長25～32 cm)は、襟裳岬南の津軽暖流域の縁辺から親潮第1分枝先端の三陸沿岸、および常磐沿岸で漁獲された。また、東経159度30分の沖合でもわずかに漁獲された。漁獲尾数は、ゴマサバがマサバよりやや多く、体長モードは両種とも27 cmであった。

本調査は、1987～2002年の8～10月に、おもに東経148度以西の北海道～東北海域において流し網漁獲調査として継続して行われてきた。2001年以降は調査効率の向上を目的として中層トロール漁獲試験により実施している。

これまでの調査結果から、0歳魚は、加入豊度の高い年には広範囲に高い密度で分布するために調査海域の広い範囲で漁獲され、その出現率(漁獲のあった調査点/全調査点)が高くなる傾向が知られている。本年の中層トロール調査における0歳魚(2005年級群)の出現率は、調査海域全体でさば類、マサバとも20.4%、東経148度以西の本邦近海ではさば類、マサバとも40.7%と比較的高く、同調査での2003年級群(東経148度以西でさば類:29.0%、マサバ:26.7%)と2001年級群(同28.1%、12.5%)を上回り、2004年級群(同69.2%、56.4%)、ならびに2002年級群(同60.0%、56.7%)を下回った。

また、本邦近海の漁獲のあった点におけるCPUE(漁獲尾数/網)の平均値は、2005年級群はさば類:42.8尾/網、マサバ:37.1尾/網であり、2004年級群(さば類:54.5尾/網、マサバ:34.8尾/網)、2003年級群(同40.2尾/網、40.9尾/網)、ならびに2002年級群(同76.6尾/網、49.7尾/網)と比較して同等かやや少なかった。

これらのことから、2005年級群の加入豊度は、近年の資源低水準期において低くはないと判断される。しかしながら、体長が非常に小さい漁獲物が多く、これらは太平洋系群の主群とは異なる可能性があることから、ここでの豊度の判断は不確実性が高い。

本調査におけるさば類0歳魚、1歳以上それぞれの出現率および平均漁獲尾数と本予測海域における南下期のさば類まき網漁獲尾数との間には有意な関係がある。また、2001、2002年の流し網と中層トロールの比較試験の結果から、漁法間の漁獲尾数の関係が得られている。これらの関係を基にして本年の9～12月のさば類まき網漁獲尾数を推定したところ2.2億尾と前年同期実績(1.5億尾)を上回る結果が得られた。

3. 今後の見通しの説明

(1)来遊量

マサバ2歳(2003年級群)以上は、残存資源量は多くない。また、漁期が進むとともに産卵親魚として本予測海域から産卵海域へと南下していく傾向にある。ゴマサバ2歳魚も残存資源量は少ない。

マサバ1歳魚(2004年級群)は、中央水研のコホート解析による資源評価やこれまでの漁況経過から、近年では比較的加入豊度の高い年級群と判断されており、その来遊量は、少なかった前年を上回る。7月以降の漁況経過や調査船調査結果から、今夏秋季の近海における1歳魚の分布域は、おもに道東沿岸から北海道周辺の津軽暖流域、および三陸以南の沿岸域であり、道東海域では、まき網による漁獲があったものの分布量は多くなかったと考えられる。近年の卓越年級群である1992(平成4)年級群や1996(平成8)年級群が1歳時に道東海域など沖合に広く分布し、秋冬季に漁場へ大量に来遊したのと異なっており、残存資源量はこれらを大きく下回ると考えられる。ゴマサバ1歳魚もマサバと同様の分布が見られ、加入豊度は比較的高く、前年を上回る。

マサバ0歳魚(2005年級群)は、上記の調査船調査結果から、その加入豊度は近年の資源低水準期において低くはないものの、前年の0歳魚(2004年級群)の来遊量が多かったことから、前年を大きく下回る。ゴマサバ0歳魚も、マサバと同様の分布が見られており、加入豊度は低くはないと判断される。

(2)漁期・漁場

漁獲の主体となる1歳魚は、前述の通り、マサバ、ゴマサバとも、おもに三陸以南の沿岸域に分布しており、今後道東海域や東方沖合から大量に来遊することはないと考えられる。三陸以南沿岸に滞泳する魚群の集群によって漁場が形成される。また、すでに常磐南部海域にも漁場が形成されているように、魚群は南下する傾向にある。水温の低下する11月以降、鹿島灘以南でも漁場が形成される。道東海域からの来遊はないことから、おもに三陸南部以南海域が漁場となる。0歳魚は、前述の通り加入豊度は高くなく、また、近海の表面水温は高めで、親潮は北偏傾向と予測されていることから漁場への来遊時期は遅いと考えられる。

(3)魚体

年齢と魚体の大きさは、商業漁獲物や調査船漁獲物の体長測定結果と鱗の輪紋による年齢査定結果による。7月から漁獲されている28~29 cm前後のマサバ、ゴマサバ1歳魚が、今漁期の主体となる。漁期が進むにつれて沖合の親潮域に分布する25 cm以下のマサバ、ゴマサバ0歳魚が漁場に来遊するが、前述の通り多くなく、1歳魚に混じる程度と考えられる。

(資料)

表1. まき網による道県別さば類(マサバ,ゴマサバ)水揚げ量(t). カッコ内は定置網などその他による漁獲.

2005年	千葉	茨城	福島	宮城	岩手	青森	北海道	計
7月	5,832	2,488	226 (6)	114 (2,029)	0 (4,269)	86 (0.1)	0	8,746 (6,304)
8月	0	0	0 (6)	1,897 (5,239)	100 (5,551)	5,818 (0.0)	756	7,815 (10,796)
9月	5,323	4,319	0 (0)	8,432 (2,949)	0 (2,714)	10,992 (1.4)	2,341	31,407 (5,664)
計	11,156	6,807	226 (12)	10,443 (10,217)	100 (12,534)	16,896 (1.5)	3,097	47,969 (22,764)

各道県水産試験研究機関資料・その他

(むつ湾平館定置) (道東海域) 9月は暫定値

表2. さば類(マサバ,ゴマサバ)の東北海区におけるまき網による漁獲量(トン) 北海道は含まない

月\年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
1	2,447	38,086	1,619	6,306	9,076	42,283	521	2,983	821	10,882	7	593	15,824
2	594	172	0	3,520	24,264	3,700	1,839	1,383	15,084	4,959	766	0	5,789
3	379	642	363	229	31,338	64	3,240	1,738	18,629	0	127	4,762	26,097
4	8,070	2,200	0	15,396	25,071	13,096	5,244	20,049	7,765	0	7,809	1,125	27,847
5	4,676	8,830	838	13,685	42,161	23,166	5,532	5,786	20,083	0	3,649	1,247	14,525
6	20,010	2,211	1,749	11,164	28,933	14,905	2,548	1,765	2,098	23	2,136	2,008	19,195
7	3,901	15	2,083	8,233	3,881	8,769	155	4,356	3,397	271	6,291	2,558	9,478
8	18,197	5,218	16,007	2,253	10,362	19,008	8,441	2,732	10,780	745	1,915	5,766	7,976
9	66,901	28,869	10,923	7,349	23,162	13,969	8,261	8,443	12,823	1,241	8,780	13,549	29,066
10	79,575	12,791	10,495	23,979	45,916	19,312	8,859	15,385	13,404	3,399	21,007	9,732	
11	49,657	8,391	4,386	8,000	75,828	18,866	6,936	10,331	18,495	5,840	1,126	8,383	
12	73,559	12,753	17,729	4,979	37,763	8,585	8,849	4,749	17,084	21,773	12,020	18,362	
7-9月計	88,999	34,102	29,013	17,835	37,405	41,746	16,857	15,531	27,000	2,257	16,986	21,873	46,520
年計	327,966	120,178	66,192	105,093	357,755	185,723	60,425	79,700	140,463	49,133	65,633	68,085	(155,797)

北部太平洋海区まき網漁業組合集計値(一部修正)、および各道県水産試験研究機関・JAFIC資料

2005年9月は暫定値

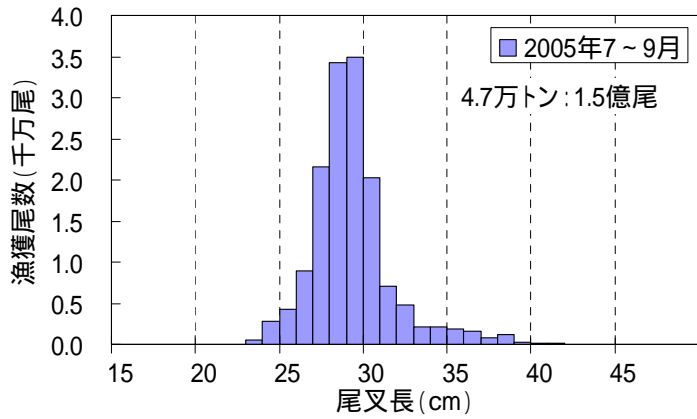


図1. 東北海域のまき網で2005年7~9月に漁獲されたさば類(マサバ、ゴマサバ)の体長組成

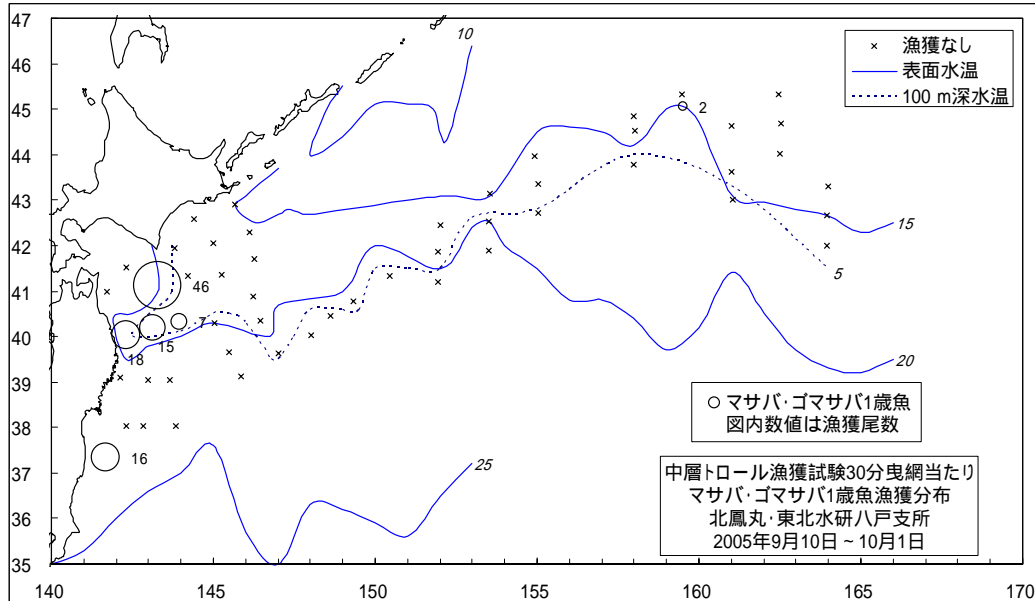
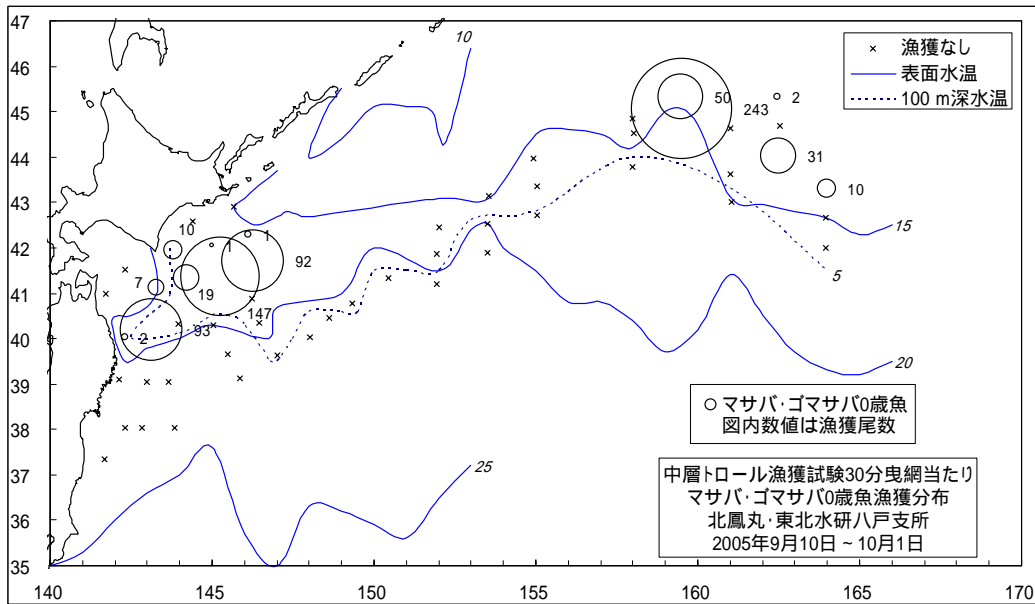


図2. 2005年9~10月の東北水研(北鳳丸)の中層トロール漁獲調査におけるさば類(マサバ、ゴマサバ)0歳魚, 1歳魚の漁獲分布. 使用したトロール網は網口の大きさが高さ約30 m×幅約30 mであり、夜間(一部昼間)に表層を約5 ktで30分間曳網した. 等水温線は本調査の観測結果とJAFICの漁海況情報による.

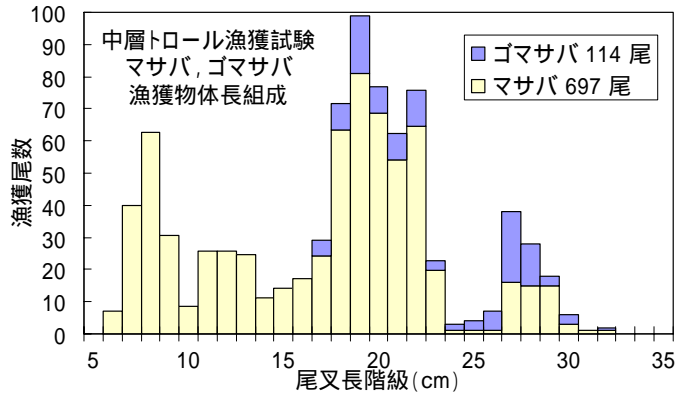


図3. 2005年9～10月の東北水研(北鳳丸)の中層トロール漁獲調査(北西太平洋, 図2)で漁獲されたさば類の尾叉長組成

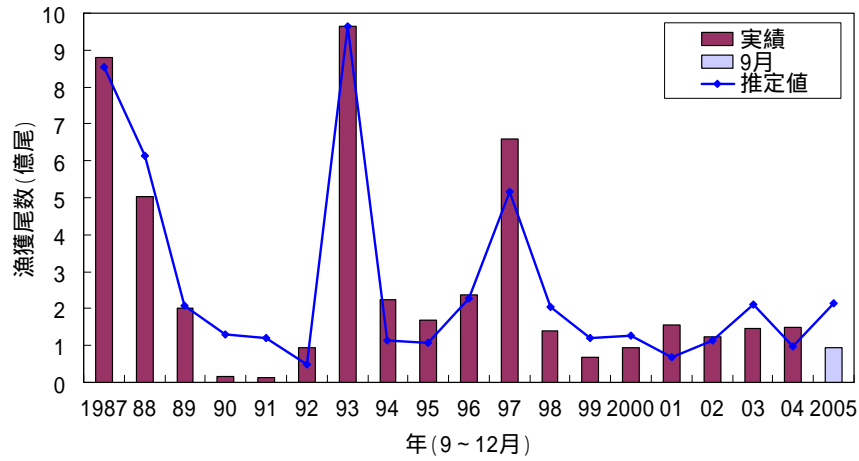
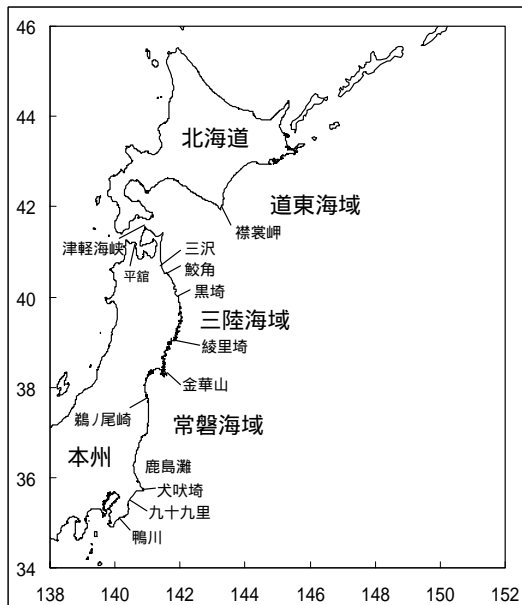


図4. 東北海区における9～12月のまき網によるさば類漁獲尾数の実績と調査船漁獲調査結果に基づく推定値. 2005年は2.2億尾と推定された.



参考. 東北海区の地形図